

研究結果報告書

研究結果

公益財団法人住友財団の助成を受け、2012年4月から2013年3月までの1年間、「漢詩人としての広瀬淡窓の研究」というテーマで、予定どおり順調に研究を進めることができた。

本研究の中心人物は、江戸時代後期に近世最大規模の漢学塾「咸宜園」を営み、近代学校制度の先駆者と言われる広瀬淡窓である。淡窓の教育思想と哲学思想の関連研究は、これまで多くの研究者が取り組んできたが、「漢詩人としての淡窓」に着目した研究は少ないと言えよう。従って、本研究は「淡窓の漢詩」に焦点を当て取り組んだものである。

淡窓の漢詩をめぐって、本研究は、主に二つのテーマで構成される。

第一は、「漢詩の研究」である。

淡窓の漢詩についての整理が完了し、正式的に出版されることになった。これは、日本漢文著作シリーズの一つとして出版される『広瀬淡窓漢詩集』で、多くの中国人に受容されるであろう。この作業の過程では、淡窓のすべての漢詩を何度も読み、彼の漢詩の特徴を見出すことが出来た。更には、淡窓の漢詩の特徴を分析し、同時代の日本の漢詩人は勿論、中国歴代の詩人を含む詩人達の漢詩と比較し、その分析結果を論文にまとめて発表した。その一部を以下紹介する。

- ・淡窓の漢詩の中には、西洋の科学知識を活用し、別の詩人から得た新しい発想を用いながら、独特な詩歌を作ったものがある。
- ・病弱であったため、人生で一度も九州を出たことがなかった淡窓だが、学識や漢詩では絶対誰にも負けないと云う強い自負があったのであろう。京都/大坂や江戸といった大都市ではなく、生涯豊後の国という地方に住んだ淡窓が、優れた漢詩を残したということは、江戸文化の奥深さを十分に証明している。

第二は、「漢詩理論の研究」である。

古文で書かれた『淡窓詩話』は、漢詩に必要な要件をすべて備えているので、漢詩と同一視すべきである。本研究を進めるにつれ、淡窓の漢詩理論を明らかにすることが出来た。『淡窓詩話』では、「一祖四宗」という概念を掲示しながらも、詩人達が受け継ぐ関係を述べている。また、同時代の清代の詩歌も提唱し、より高い評価を与えている。このテーマについても論文にまとめ、発表した。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 （題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

なし

論文 （題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

1、広瀬淡窓の漢詩と杜甫（中国語）

2、『淡窓詩話』における清代詩歌の批評（中国語）

（注：論文投稿審査中）

書籍 （題名・著者名・出版社・発行時期等）

『広瀬淡窓漢詩集』（附淡窓詩話の中国語訳文）、張宇超（編訳）、華東師範大学出版社（中国上海）、2013年